

第34回『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

☆コミュニケーションするためのチャンネル

コミュニケーションにもチャンネルがあります。メッセージの送り手と受け手を結びつける機能を担っているものをチャンネルと言うのです。例えば感覚器官がそれに当たります。メッセージの経路として感覚器官を通してからです。

コミュニケーションしているときには普通二つ以上のチャンネルを同時に使われています。

対面の状況でコミュニケーションしている場合には、○音声ー聴覚のチャンネル（話をしたり、その内容を聞いたり）○身振りー視覚のチャンネル（身振りをしたり、身振りを解釈したり）、○臭いー臭覚のチャンネル（臭いを発したりそれをかいだり）、○触れるー触覚のチャンネル（触れたり、触れられたり）といった複数のチャンネルが同時に使用されているということです。

その他に、メッセージを運ぶ手段としてメディアをチャンネルと考える場合もあります。対人コミュニケーションで考えると、電話や手紙、パーソナルコンピュータや携帯電話からのメールなどがチャンネルです。

1) 発達障がいのある子どもの場合は

発達障がいのある人の場合、感覚過敏などがあると、感覚器官をチャンネルとして利用してコミュニケーションすることができない場合があります。例えば、触覚過敏があるために、触られるのを極端に嫌がる子どもの場合は、そのようなチャンネルを使うことができなくなってしまいます。臭覚に過敏な子どもの場合は、臭いを嗅いでしまうことで、違ったメッセージを送ってしまうことにもなります。また、身振りや表情などを理解することが難しくそこに込められているメッセージを理解することができないために、トラブルになることもあります。

逆に、パーソナルコンピュータや携帯電話のメールは、発達障がいのある人達にとって有効なコミュニケーションツールになります。視覚的な情報処理を得意としている人の場合は、文字等視覚的な情報でやりとりをすることができるからです。発達障がいのある人で、話をするのがとても苦手な人が、びっくりするようなメールを書いてくることを経験することはよくあることです。以下のメールは、あるアスペルガーのある少年が打ってきたメールです。

「こんばんは、〇〇です。最近、学校に行きたくありません。友だちの視線が気になったり、僕がクラスにいてもいいのかと思います。モヤモヤしてます。死にたいです。つらいです。中学に行くまえにリラックスしたいです。何もかもいやです。明日学校に行く勇氣もないけど、いかないかんと思います。でも昼まで頑張っていくつもりです。学校はいややけど大学には行きたいです。苦しくて死んでしまいたいです。」

普段、学校でもあまり話をすることがないのに、こんな内容のメールを送ってきたのです。早急に対応することができ、今は元気になっていますが、電子メールというコミュニケーションのチャンネルがあってよかったなと思いました。

忘れてはならないことは、このような子どもたちが少なからずいるという事実です。自分の思いを音声では表現できないが、メールであれば表現できる人達がいるのです。

また、発達障がいのある人の場合、視覚的な情報処理は得意であったとしても、身振りや表情などの理解は苦手な人が多いということも知っておかなければならないことです。視覚的な情報処理に優れているから、身振りやジェスチャー、表情などの読み取りが上手かということそうではないということです。その表情や身振りの裏にある意図を読み取ることが困難だからです。

2) どのようにすればいいのか

保護者とも相談して、パーソナルコンピュータや携帯電話のメール機能などの利用を考えていくこともひとつの方法です。相談の内容や伝えたいことなどを電子メールでやり取りするようにするのです。もし、使えるかどうかわからないときは、一度パソコンで文章を書いてもらったらどうでしょう。そうすれば、どのように使うことができるのかかわかると思います。その上で、利用方法について考えてみたらどうでしょう。

聞いて理解することが苦手な子どもの場合、視覚的な情報でやり取りすることができる電子メールはコミュニケーションするための強力な手段になります。視覚のチャンネルを活用したコミュニケーションを考えていくということです。ICTの利用に際しては、他の教員との共通理解を十分にしておく必要があります。誤解を生むことが無いようにしていく必要があるのです。

坂井聡先生の紹介

（プロフィール）

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

（著書）

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころりす出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンバメント研究所）など